

**サベー公立中等学校 III でおこなわれた
プラスチック製品、なかでもプラスチック袋の利用が
世界に及ぼす悪影響について意識を高める
啓発アクションについての報告**

1 回目のワークショップ

最初のワークショップに各クラスから 5 人の代表が参加しました。まず、生徒たちに彼ら自身がどんなプラスチックを知っていて、その製品にはどんな違いがあるか尋ねました。生徒たちは固いプラスチックと柔らかいプラスチックでできたモノの例を上げました。そこで私たちは、どのようにして固いプラスチックからやわらかいプラスチックを作るのかを話しました。生徒たちにプラスチックは良いものか困ったものかを質問しました。答えは大半がプラスチックを良いとする見方でした。ワークショップに参加しているあるお父さんがそのときプラスチックの悪い点を紹介しました。例えば地中のプラスチックは水分の移動を妨げてしまうほか、プラスチック袋から食べ物を食べると病気になったりするし、飲み込んだプラスチックが胃に溜まってしまったら動物は死んでしまう。生徒たちはこの話に驚きました。

それからゴドヌー氏が「プラスチック・プラネット」という映画を上映しました。途中で休憩を入れて、生徒たちが今見たことに反応できるようにしました。生徒たちは非常に驚愕しました。ベナンの道路わきによく落ちているプラスチックゴミは、見かけるとあまりいい気分にはなりません。しかし、世界中がこのプラスチックの被害をうけていることを生徒たちは知りませんでした。

ゴドヌー氏はプラスチックが引き起こすさまざまな問題を挙げました。

1. 健康の問題:

- ガンの増加
- 不妊の増加
- 肥満の増加
- 集中力の減退
- 頭痛や頭皮の湿疹(人工毛エクステンションの使用による)
- 物忘れ

2. 環境の問題:

- 海洋の破壊
- 動物の死
- 人工毛や繊維が絡まることにより足を失う鳥類
- オゾン層の破壊(プラスチック燃焼による)
- 温暖化の推進
- 洪水の発生(地中のプラスチックが雨水の浸透を妨げ、コトヌー市では大問題になっています)
- 土地の不毛化

続いて、プラスチックの代わりに何を使えるか相談が始まりました。はじめのうちはお手上げの雰囲気でしたが、ゴドヌー氏は、プラスチックが世界を支配する前に、モノをどのように包装して、売っていたかと説明を始めました。生徒たちが最初、時代遅れで原始的と感じた、植物の葉を包装に使う方法は、新しい輝きを得ました。葉で包むことは、伝統的であると同時に現代的でもあるベナンの文化として誇りたかく評価されたのです。その後に、環境によい他の材料について語られました、例えば、紙袋、布袋、さらに自然分解する材料でできた袋です。

生徒達には、このプラスチックの問題を両親、家族や友人と話す宿題が与えられました。生徒たちは 2 回目のワークショップでそれについて報告することになりました。



2 回目のワークショップ

2 日目にはまず、前日に学び体験したことを振り返りました。それから生徒たちは家庭や友人との話がどのようなであったかを報告しました。多くの親たちは自分でもプラスチック袋を買い物に使っているので、それを弁護する態度が多かったようです。それでも喜んで対応した親たちもいました。ワークショップに出席したあるお父さんは、経営しているカフェで毎日 75 枚のプラスチック袋を渡していると話しました。この人は非常に関心を示して、生分解する袋をどこで手に入れることができるかについて質問していました。

このワークショップの後半では、啓発祭に演じる劇の準備をしました。役者が選ばれ、劇の内容について相談しました。その場で実際に上演をし、その場に居合わせた人たちは盛大な拍手を送りました。それから改善点が提案されました。在席の親

たちも上演のアイデアを出しました。それから劇は繰り返され、熱心に仕上げられました。15 時になって、生徒たちはやっと納得しました。そして金曜の 8 時に最後のリハーサルをする約束をしました。



3. 啓発祭

朝のうちはサベーの親や他の住民のみなさんはなかなか来場しませんでした。この土地の代表がみずから住民たちに来るように呼びかけました。新聞記者やテレビ局も遅れてきました。彼らはなんと午前 4 時にコトヌーを出発しましたが、道路は長く、でこぼこだったのです。10 時に全員がそろうと、私たちはこの啓発祭を始めました。“Vie et Culture” の歌で、待ち時間をリズムカルに過ごしました。

開会挨拶のあと、生徒たちがプラスチックの健康や環境に与える問題を紹介しました。





それからゴドヌー氏がマイクをうけとり、生徒たちの話をさらに深め、聴いている皆さんの質問に答えました。



リラックスのためにサバーのダンスグループが踊りをみせてくれました。土地の代表まで共に踊ってダンスの才能を披露しました。





いろいろな問題をもう一度まとめました。



最後に「エコル・ド・ソリダリテ（連帯の学校）」会が、校庭を清潔に保つためのゴミ箱を学校に渡しました。



生徒たちのモチベーションのために當田さんは、もし 12 ヶ月の間、校庭やゴミ箱の中にプラスチックが見られなかったら、この学校は「プラスチックフリーの学校」という証書をもらえると確約しました。これには少額ながら賞金もつきます。生徒たちはすっかり喜び、この証明をもらえるようにがんばると約束しました。学校で食べ物を売っている女性たちはすぐに金属の皿に切り替えるといい、生徒たちに、自分のお皿や入れ物を家庭から持ってくるように頼みました。1 月 1 日からこの学校は定期的に、しかし予告なしにテストされることになっています。

プラスチックフリーの学校を